

# 平成30年度 下野市地域公共交通会議 (栃木県下野市) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

## 地域の公共交通の現況

本市は平成18年1月に石橋町・国分寺町・南河内町が合併して下野市となった。  
市内には、南北にJR宇都宮線が通り、石橋・自治医大・小金井の3駅がある。民間運営のバス路線は、JR石橋駅から宇都宮市方面と真岡市方面への2路線と、JR自治医大駅と自治医科大学付属病院間の1Km程度の1路線が運行されている。また、JR小金井駅西口には、小山市のコミュニティバスが乗り入れをしている。  
平成23年1月から、市内の交通空白地域の解消を図るためデマンドバスを運行しており、利用者は市内全域からあるが、利用登録者の増加に伴い、予約受入れ困難な時間帯が増えたことも相まって全体の利用者は年々減少傾向にあるため、運行形態や内容を検討する必要がある。

## 事業の目的・必要性

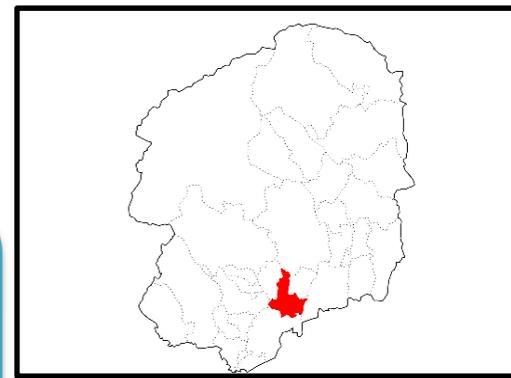
市民の多くは、日常の移動手段として自家用車に大きく依存している。しかし、高齢者等の交通弱者は公共施設の利用・買い物・通院等に不便な状況にある。そのために市内中心部の公共施設、医療機関、商業施設等に移動できる地域公共交通は必要不可欠である。現在運行している本市デマンド交通は、地域市民の移動手段の選択肢の一つとして定着しており、さらに運行内容の充実を図りながら本事業を推進する必要がある。

## 事業の概要

市内全域を、合併前の旧行政区（石橋・国分寺・南河内）でエリア分けし、各エリアにワゴンタイプ(10人乗り)を1台ずつ配置し、目的地まで送り届ける「完全ドア・トゥ・ドア型」により運行している。  
市の中心地点である市役所を乗継施設とし、エリアを超えて利用する場合は、基本的に共通乗継施設において乗継をする。ただし、公共性が高く、利用者が多い自治医科大学付属病院・健康福祉センター・ゆうゆう館・市役所は全エリアから直接乗り入れできることとしている。また、乗合者が少数等で時間的余裕がある場合に限り、乗継をせずに目的地へ直行で運行し、利用者の利便性を図り、効率的な運行を行っている。なお、事前登録制度を採用しており、利用の際には事前の利用登録(初回のみ)と利用便の1時間前までに電話予約を行う必要がある。

### 【デマンド交通「乗合タクシー」】

事業者名: 関東交通株式会社  
運行区域: 下野市全域(石橋・国分寺・南河内の3エリア)  
運行日: 月曜日から土曜日 ※祝日及び振替休日、年末年始(12/30~1/3)を除く  
運行時間帯: 午前8時00分~午後6時00分  
運行本数: 各エリア 10便/1日  
運行車両: 10人乗りワゴン車 3台(エリアごとに1台配置)  
運賃: 大人(中学生以上)300円・小学生200円・未就学児無料(ただし、保護者同伴を要する)



面積	745.9km <sup>2</sup>
人口 (H31.1.1時点)	60,141人
15歳未満	7,781人
	65歳以上
高齢化率	24.27%
世帯数	23,953世帯

## 協議会開催状況

- 協議会の開催状況 3回開催
- ・第1回(10月18日)  
デマンドバスの現状とアンケート調査結果及び次年度以降の運行について
  - ・第2回(1月29日)  
デマンドバス運行状況及び地域公共交通確保維持事業(事業評価)
  - ・第3回(6月26日)  
・地域公共交通確保維持事業について  
・デマンドバス運行状況と今後の運行について

## 前回の事業評価結果の反映状況

平成28年4月に策定した「下野市地域公共交通総合連携計画」に基づき、デマンドバスを運行しながら、地域公共交通会議において、利便性や効率性の向上するよう、運行形態等について協議をしている。また、小中学生を対象とした利用案内を作成し、市内小中学校へ配布し、利用者の少ない時間帯の利用者増を図る等、地域に根付いた持続可能な地域公共交通体系の確立に向けた取り組みを行った。

## 定量的な目標・効果

### 【目標】

- ・1日当たりの利用者数を120人以上とする。

### 【目標を設定した理由】※何故この目標にしたのか

下野市地域公共交通総合連携計画において行った需要予測に基づき、1日当たりの利用者数を120人以上と設定した。

### 【効果】

デマンドバスの運行維持により、誰もが快適に移動できる交通環境を整え、地域の活性化と市民の生活満足度の向上を図ることが出来る。

## 目標効果の達成状況

1日当たり利用者数:73.9人

### 【目標を達成できなかった要因(分析)】

利用登録者数の増加に伴い、利用希望者数も増加の傾向にあるが、利用者の利用希望時間帯が重複しており、予約を受けられないことも多くなっている。

また、利用者数の少ない時間帯における利用者数増加を目的に、小中学生を対象に利用案内を作成・配布したが、新規の利用登録者や継続的な利用者は少数に留まった。

今後も利用者数の少ない時間帯への対策とともに、車両台数の追加等、より多くの利用予約を受け入れられる態勢を整える必要がある。

## アピールポイント

利用者を目的地まで送り届ける「完全ドア・トゥ・ドア」型運行を実施している。

基本的にエリアを超えた利用には乗換を必要としているが、利用者が多く、公共性の高い3施設へは直行できるように配慮している。

また、65歳以上の運転免許証自主返納者、75歳以上の高齢者、未就学児を持つ子育て世帯を対象に、外出支援事業としてデマンドバスの回数券を交付し、利用者の増加、利用促進に努めている。

## 今後の改善点

「下野市地域公共交通総合連携計画」に基づくデマンドバスの運行を継続する。

併せて、地域に根付いた、より効率的で利便性の高い持続可能な地域公共交通体系の確立を目的とした地域公共交通網形成計画の平成32年度策定に向けて、市民意向調査を実施するとともに、車両台数や運行エリア等、今後の運行形態や内容について検討する。

